

八重山におけるオキナワモズク養殖に関する 技術改良試験－Ⅲ

— 盤状体培養中に発生した病害について —

勝 俣 亜 生・村 越 正 慶

1980年12月、1981年2月・3月の3回、40ℓ水槽で保存培養中の盤状体に細菌が原因と思われる病害が発生した。図-1に示したように、本来のモズクの色である濃い褐色に対し、薄緑色の斑（図の白い部分）が生じるもので、2つの部分ははっきり区別される。その境目付近を拡大したのが図-2であるが、原形質の萎縮がみられる。盤状体の周囲に点状に見えるものの大部分は原因と思われる細菌である。薄緑色の部分ではさらに原形質が萎縮し、点状（ ）になっており、そこにはすでに細菌がほとんどみられなかった。また褐色の部分は正常であるが、放置しておくと保存板全体が薄緑色となり盤状体は死滅する。

しかし、対策は淡水浴で十分であり、5分間の浸漬後海水に戻せば、モズクには影響を与えずに細菌を除去することができる。従来、雑藻除去法として薦められてきた保存板の水洗いが、この点でも有効であったのかもしれない。

この細菌について詳しい観察は行なっていないが、 $3\mu \times 0.5\mu$ 程度でゆるいS字形（*s*）をしており活発に動き回る。

要 約

越夏保存中のオキナワモズク盤状体に、細菌が原因と思われる病害が発生したが、5分間の淡水浴で細菌を除去することができた。

伊 勢 海 藻 類 採 集 地 点 一 覧 表

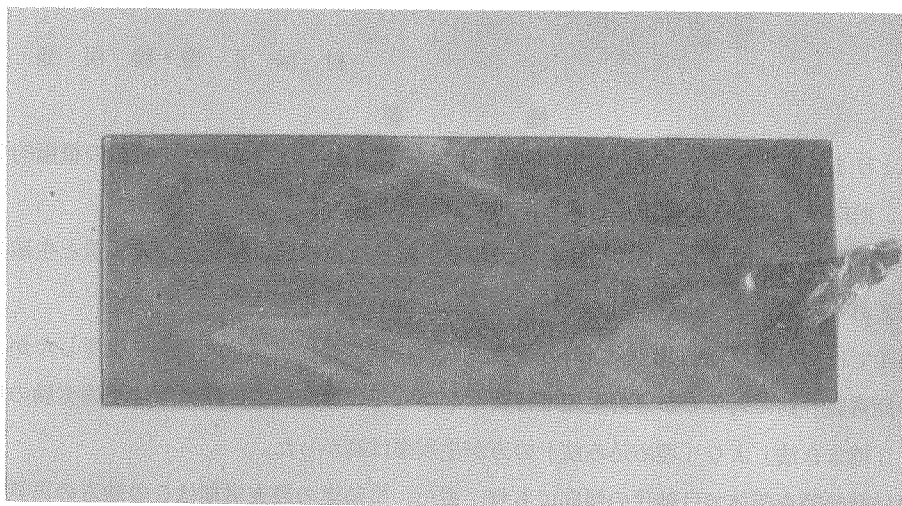


図 - 1

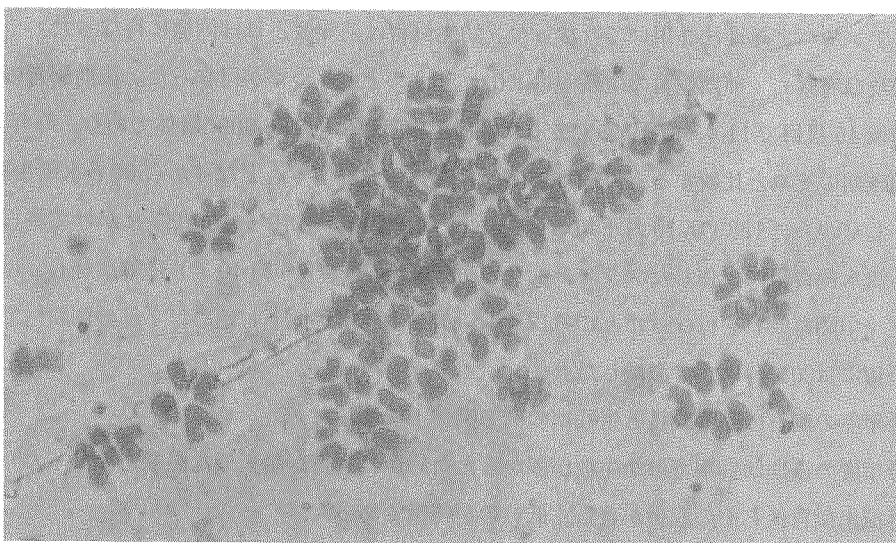


図 - 2